

1 主題名 人の喜びが自分の喜びへ 4 - (4) 社会奉仕

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

指導内容4 - (4)は、「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする」態度を養うことをねらいとしている。

高学年になると、学校生活の様々な場面で、学校全体のために進んで働いたり、公共のために役立つこととしてさまざまなボランティア活動を経験してきている。しかし、それらの活動に取り組んでいる児童の内面に目を向けると、仕方なくやっているという受け身の姿勢が見られたり、だれかのために「してあげている」というような気持ちが見え隠れするときもある。

そこで、社会奉仕をすることの本当の喜びである、「だれかの役に立つことで自分自身がうれしい気持ちになったり、充実した気持ちになる」ということに気づかせたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態(男子2名,女子3名,計5名)

本学級の児童は、最高学年としての自覚を持ち、学校生活においても積極的に働く姿が見られる。クリーン作戦などの社会奉仕活動でも、進んで行動する様子が見られた。

しかし、社会奉仕について、児童に意識調査を行ってみると、「やることと決められているからやる」「周りの人のためになるから」という理由で活動に取り組んでいると答える児童も見られ、まわりの人の役に立つ喜びに気づいていないことがわかった。

そこで、奉仕することは、相手だけでなく自分も充実した気持ちになることに気づかせ、今後の社会奉仕活動に新たな気持ちで取り組んでいけるようにしたい。

(3) 資料について ハートいっぱい推進事業道徳資料「忘れられない交流会」

本資料は、あまり深く考えもせず老人ホームとの交流会に参加した主人公が、目の不自由なおばあさんとのやりとりを通して、だれかの役に立つことの喜びや充実感に気づくという話である。

実際に行った高齢者施設訪問時のことを想起し、自分と主人公の心を重ねながら、自分を振り返ることができる資料である。

主人公の気持ちに共感させながら、「相手の喜びが自分の喜びになる」という社会奉仕の本当の喜びに気づかせ、今後はそのような気持ちで公共のために役立つことをしていこうという心情を育てたい。

3 教科・領域・学校行事との関連

月	教科・領域等	題材・主題名	ね ら い
5	特別活動 (学校行事)	クリーン作戦	・縦割り班で協力しながら、地域の美化に貢献することができる。
10	総合的な学習の時間	高齢者施設訪問	・高齢者の方々とのふれあいを通して、自分たちにできることを考えることができる。
10	道徳 (本時)	人の喜びが自分の喜びへ	・人や社会に奉仕する喜びを知り、進んで人のために役立とうとする気持ちを育てる。
11	特別活動 (学級活動)	交流会の計画を立てよう	・高齢者の方々の視点に立って、みんなが楽しめる交流会の計画を立てることができる。
11	総合的な学習の時間	高齢者施設との交流会	・その場にいるみんなが楽しめるよう、進んで活動することができる。
12	道徳	社会のために	・勤労の意義を理解し、社会のために奉仕しようとする態度を養う。

4 本時の指導

(1) ねらい 人や社会に奉仕する喜びを知り、進んで人のために役立とうとする意欲を育てる。

(2) 準備・資料

体験活動時の写真、場面絵、主人公の表情の絵、発表ボード、ちぎり絵
高齢者の方からのメッセージ

(3) 展開

主な活動と発問・予想される児童の反応	教師の支援 評価
<p>1 高齢者施設訪問を振り返る。 訪問する前は、どんな気持ちだったろう。 ・どう接したらいいかわからず、不安だった。 ・おじいちゃんやおばあちゃんに喜んでほしい。</p> <p>2 資料「忘れられない交流会」を読んで話し合う。 「私は目が不自由だから、ちぎり絵はむずかしいなあ。一緒にやってくれるとうれしいんだけど・・・。」というおばあさんの言葉を聞いたとき、つとむはどう思ったでしょう。 ・どうしよう。困ったな。 ・もう少し考えて準備をすればよかったな。 ・他の友達に任せてしまおうかな。 ・なんとか一緒にやる方法はないかな。</p> <p>順番に手伝いにまわっているときのつとむはどんなことを考えていたでしょう。 ・みんなから一斉に言われても、困っちゃうよ。 ・大変だけど、みんなを手伝ってあげたいな。 ・たくさんの人に頼られてうれしい。がんばろう。</p> <p>思わず、おばあさんの手をにぎりかえしたときのつとむはどんな気持ちだったでしょう。 ・こちらこそありがとうございました。一緒にちぎり絵をして楽しかったです。 ・次もまた楽しい交流会ができるようにいろいろと考えてきます。楽しみにしててくださいね。 ・本当はちぎり絵が完成するか不安だったんです。でも、ぼくと作ったちぎり絵をそんなに喜んでくれて、最後まで投げ出さずにやってよかったです。</p> <p>3 体験活動時の自分を振り返る。 おじいさんやおばあさんたちの笑顔を見たとき、どんなことを感じましたか。</p> <p>4 訪問した施設の高齢者の方からのメッセージを読む。</p>	<p>・教師の支援 評価</p> <p>・体験活動時の写真を提示することで、そのときの気持ちを想起し、素直に語るができるようにする。</p> <p>・準備をしているときは考えてもいなかったおばあさんの言葉に戸惑う主人公の気持ちの揺れに共感させたい。</p> <p>・実際の交流会の場面で、高齢者の方から次々に声をかけられ、その対応に戸惑う主人公の心情に気づかせたい。</p> <p>・予期せぬ状況が起こり揺れ動く主人公の心の葛藤に気づかせ、中心発問につなげていきたい。</p> <p>・役割演技をすることで、主人公の心に喜びややりがい芽生えたことに共感させたい。</p> <p>・役割演技では、おばあさん役としてGT(養護教諭)に協力してもらうことで、臨場感を高める。</p> <p>・発表ボードに書いてから役割演技をすることで、自分の考えをまとめ、安心して演技が行えるようにする。</p> <p>・発表ボードに書いた内容と実際の役割演技のときの言葉が異なってもいいことを伝え、素直な思いが表現できるようにする。 奉仕する喜びを知った主人公の気持ちに気づくことができる。 (発言内容・発表ボード)</p> <p>・訪問時の高齢者の方々の写真を提示し、資料の最後の部分とも関連させながら、自分のそのときの気持ちを振り返ることができるようにする。</p> <p>・相手の笑顔を見て、自分も充実したあたたかい気持ちになったことに気づかせたい。</p> <p>高齢者の方からのメッセージを聞くことで、奉仕することへの喜びを実感し、次回の社会奉仕活動への思いがふくらむようにする。(発言内容・様子)</p>
<p>5 家庭・地域との連携 実際に自分たちが立てた計画をもとに、地域の高齢者施設との交流会を実施することで、児童の道徳的実践につながるようにする。</p>	